

頁	行	誤	正
2	8	(第Ⅲ章・・・)大型	中大型
19	下 2	ただしも	ただし
21	右下	明章潢 万暦 41(1613)年刊	章潢 万暦 41(1613)年 没後刊
24	右 7		(補足)文化 4 年作で手書の初稿本が存在し、著者蔵本のほか同大の南波 45(紙 93x89cm)も存在することから、古屋野は塾生のため模写させたと推測される。この反響が大きかったためアメリカ大陸の全体像も加えて改良したのが文化 6 年の私家刊行版である。
65	左下 6	川村	川村(1988)
70	右下 6	Dab と Dcd	Da と Db・c
71	左 14	D 訂 a・b	D 訂 a
	左 24	下記 d	下記 c
97	左下 1	天明 5 年より後	天明 5 年以後、寛政元年以前すなわち天明 7(1787)年前後
105	左 2	天保十五(1845)年	天保十五(1844)年
	右 21	題は①b 同様	題は①Ab 同様
	右下 7	①c	①C 版
	右下 5	①版	①C 版
110	左 2	長赤水先原稿	長赤水先生原稿
135			(追加)V-2-①n「倭節用悉改袋」文政版所載 万国総図 海野(1978/1985,pp.314-6)によれば、咽蘭新訳地球全図(橋本図VI-4)の両半球図の内容を卵形図に置き換えたもので、挿絵画家の速水春曉斎などが描いたとされる。同節用集の世界図の取載は文政元(1818)年から同 9 年版も図柄は同様。橋本図の豪州は南西と東の輪郭が描かれておらず、そこを想像でつなげばこのメガラニカの形態になる。即ち想像の産物である故にユニークではあるが根拠に乏しい図である。
	右 22	①の内側のみ・・・5 年以前とわかる。	(2 行削除)
225	右 18	安政元年	嘉永 7(1854)年
234	右 10	版の状態から A と B の後先の判断は困難で、A が初版で B は後版のため刷りが薄いのか、A のほうが明治 7 年の刊記を削除した後版で色ずれが目立つのか判断は保留。	著者蔵本の A・B 版の状態からは B は刷りは薄い鮮鋭であり先行していると思われ、A は明治 7 年の刊記を削除しただけの後版で色ずれも目立つものと考えられる。
271	左 5	形状は異なり、・・・	形状は異なり、栗原図と違って西半球(米大陸側)の図が東半球として右に置かれている。
	右 7	比較する際 6-②は	比較する際 5-②は
273	右 1	嘉永 7 年以降	嘉永 7 年頃
295	下 4	北東の「共和政治」	北西の「共和政治」
298	左下 17	横は・・・縦は	縦は・・・横は
	右 15	(同上)	(同上)
299	右 15	(同上)	(同上)
307	左 14	IV-2-③④やひらがな版IV-5-④の	IV-2-④⑤やひらがな版IV-5-③(④n)・④(⑤n)の
313	右下 11	かつ 1821	かつ 1824
353	下 1	(集計)南波 127 秋岡 80 著者 71	南波 119 秋岡 72 著者 76

コード体系の変更案

旧	新
IV-5-⑤世界万国四大海六大州之図	■ IV-5-③n
IV-5-③嘉永改・地球万国山海輿地全真図説 行書版	■ IV-5-④n
IV-5-④嘉永改・地球万国山海輿地全真図説 行書別版	■ IV-5-⑤n
IV-9-②万国地球輿地全図	■ IV-9-②A
IV-9-④万国一覽之図 附 人物風俗之節	■ IV-9-②B
IV-9-⑤万国地球山海輿地全図説(内題)	■ IV-9-④n
IV-9-⑥A(地球万国全図・大日本略図)	■ IV-9-⑤n.A IV-9-⑤n.B「蛮舶図絵」収載 (大日本畧図・輿地畧図)
IV-9-⑥B 地球万国輿地全図	■ IV-9-⑤n.C IV-9-⑥n 万国地球輿地全図 並びに 南瞻部洲大日本国正統之図 V-2-①n「倭節用悉改袋」文政版所載 万国総図
V-2-①嘉永新板地球万国山海輿地全図説	■ V-2-③n
V-2-③世界万国之図 腐蝕銅版	■ V-2-④n
IV-9-⑦万国世界之図	■ VIII-4-⑥n
IV-7-⑦	■ VIII-4-⑦n
IV-7-⑧	■ VIII-4-⑧n
IV-7-付. 万国山海通覧分図	■ VIII-4-付n
IV-7-⑨世界六大州	■ IV-7-⑦n